

# 第1回2023年技能五輪国際大会招致委員会

日時：2018年4月18日（水）

17:20～18:20

場所：厚生労働省講堂（低層棟2階）

## 議 事 次 第

冒頭 厚生労働大臣挨拶

1 開会

2 議題

- (1) 2023年技能五輪国際大会招致委員会設置要綱について
- (2) 委員長の選出並びに委員長代行及び副委員長の指名について
- (3) 大会招致部会・機運醸成部会・選手強化部会の設置について
- (4) 招致に向けた取組（案）について
- (5) 委員からのご発言

3 閉会

### ○配付資料

- 資料1 2023年技能五輪国際大会招致委員会設置要綱（案）
- 資料2 2023年技能五輪国際大会招致委員会委員名簿（案）
- 資料3 2023年技能五輪国際大会招致委員会の構成について（案）
- 資料4 2023年技能五輪国際大会の日本・愛知への招致に向けた取組（案）
- 資料5 小澤委員提出資料
- 資料6 寺島委員提出資料
- 資料7 福井委員提出資料

## 2023 年技能五輪国際大会招致委員会設置要綱（案）

### （目 的）

第 1 条 2023 年技能五輪国際大会の日本・愛知県への招致に向けて、オールジャパン体制による各種取組を実施するため、2023 年技能五輪国際大会招致委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### （審議事項）

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。

- （1）2023 年技能五輪国際大会の招致に関する事
- （2）国内の招致機運・技能尊重機運の醸成に関する事
- （3）技能五輪国際大会に出場する選手等の強化策に関する事
- （4）その他前条の目的を達成するために必要な事項に関する事

### （組 織）

第 3 条 委員会は、別紙に掲げる者をもって構成する。

2 委員会に、次の役員を置く。

- （1）委員長 1 名
- （2）委員長代行 1 名
- （3）副委員長 4 名

3 委員長は、委員の互選により選出する。

4 委員長代行及び副委員長は、委員長が指名する者をもって充てる。

### （役員の仕事）

第 4 条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 委員長代行は、委員長を補佐する。

3 副委員長は、委員長及び委員長代行を補佐する。

4 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長に指名された者がその職務を代理する。

### （役員の仕事）

第 5 条 役員の仕事は、委員会の解散の日までとする。

### （事務局）

第 6 条 委員会の事務を処理するため、中央職業能力開発協会に事務局を置く。

(部 会)

第7条 第1条の目的を達成するために必要な事項について検討を行うため、委員会に次に掲げる部会を設置する。

(1) 大会招致部会

(2) 機運醸成部会

(3) 選手強化部会

2 部会に部会長及び副部会長を置き、委員会委員等の中から委員長が指名する。

3 部会の構成員は、部会長が指名する。

4 部会は、委員長の命を受け、必要な事項を調査・検討し、委員会に報告する。

(会議の公開)

第8条 委員会は、原則として公開する。ただし、個別の事情に応じて、会議又は資料を非公開とするか否かについての判断は、委員長に一任するものとする。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この設置要綱は、2018年4月 日から施行する。

## 2023年技能五輪国際大会招致委員会委員名簿

## 委員（31名）五十音順・敬称略

赤松 明	ものづくり大学学長
池澤 あやか	東宝芸能株式会社所属タレント
石田 徹	日本商工会議所専務理事
井上 花子	一般社団法人日本造園組合連合会理事
今井 悠太	技能五輪国際大会 移動式ロボット職種エキスパート
井水 治博	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長
大関 東支夫	一般社団法人全国技能士会連合会会長
大村 秀章	愛知県知事
小澤 真一	公益社団法人建設荷役車両安全技術協会常務理事
加藤 宣明	愛知県経営者協会会長
釜 和明	中央職業能力開発協会会長
木田 隆子	株式会社ハースト婦人画報社 エル・デコ編集部 ブランドディレクター
後藤 由美子	一般社団法人日本エステティック協会理事
小林 光俊	全国専修学校各種学校総連合会会長
佐々木 龍也	日本労働組合総連合会愛知県連合会会長
澤田 裕二	株式会社SD代表取締役社長
千原 ジュニア	株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーお笑い芸人
寺島 実郎	一般財団法人日本総合研究所会長／多摩大学学長
豊田 鐵郎	一般社団法人中部経済連合会会長
中西 義裕	名古屋製菓専門学校校長
挾土 秀平	職人社秀平組代表
長谷川 正己	全国中小企業団体中央会副会長／愛知県中小企業団体中央会会長
福井 昌平	株式会社コミュニケーション・デザイン研究所代表取締役社長
堀場 和夫	名古屋市副市長
水野 直樹	株式会社NHKエンタープライズグローバル事業本部 事業開発センター イベント・映像展開担当部長
宮永 俊一	一般社団法人日本経済団体連合会副会長
森田 哲夫	全国商工会連合会理事／愛知県商工会連合会会長
山本 亜土	愛知県商工会議所連合会会長
横尾 敬介	公益社団法人経済同友会副代表幹事・専務理事
芳野 友子	日本労働組合総連合会副会長／JAM副会長
和田 慶宏	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長

## 2023 年技能五輪国際大会招致委員会委員名簿(案)

(敬称略)

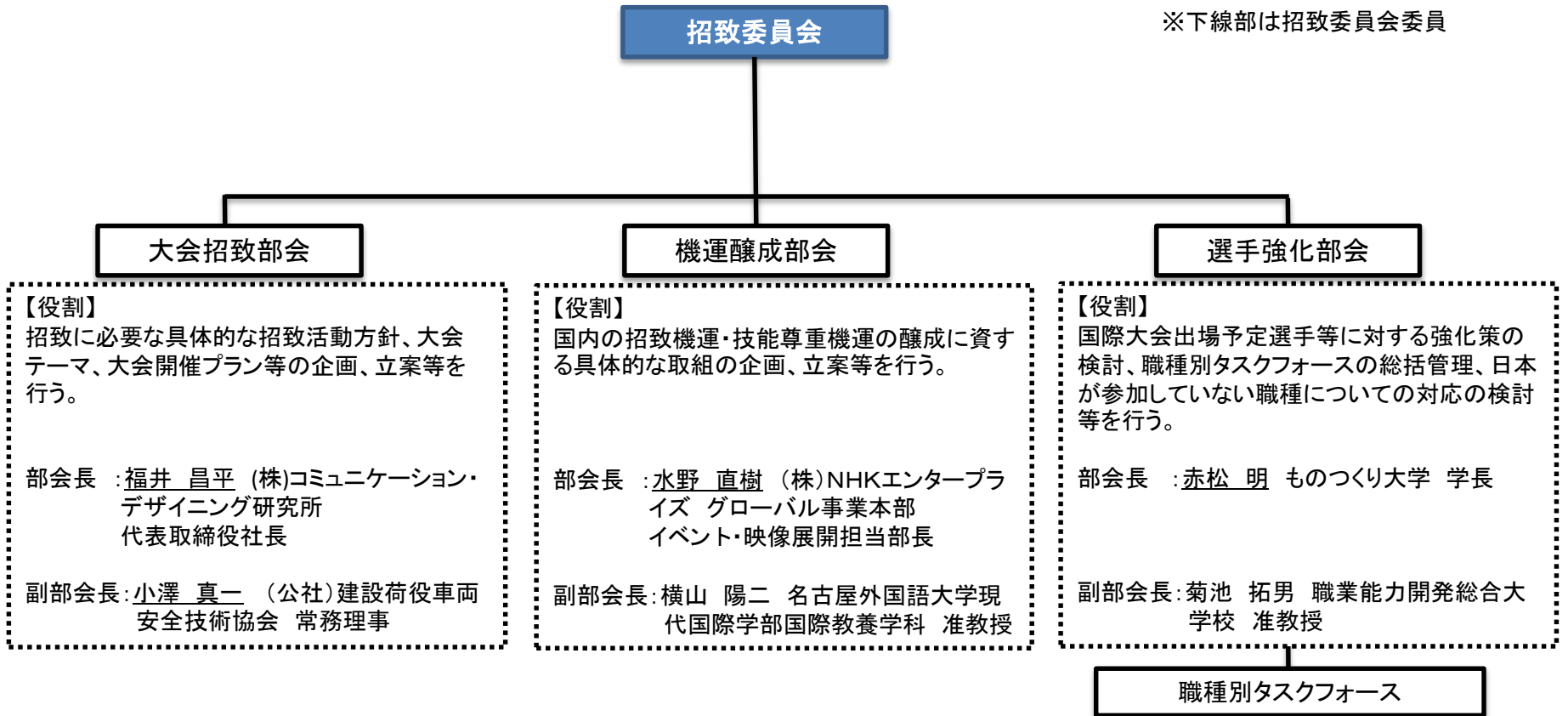
委員長	大村 秀章	愛知県知事
委員長代行	釜 和明	中央職業能力開発協会会長
副委員長 (4名)		
	宮永 俊一	一般社団法人日本経済団体連合会副会長
	山本 亜土	愛知県商工会議所連合会会長
	豊田 鐵郎	一般社団法人中部経済連合会会長
	加藤 宣明	愛知県経営者協会会長

## 委 員 (25名) ※五十音順

赤松 明	ものづくり大学学長
池澤 あやか	東宝芸能株式会社所属タレント
石田 徹	日本商工会議所専務理事
井上 花子	一般社団法人日本造園組合連合会理事
今井 悠太	技能五輪国際大会 移動式ロボット職種エキスパート
井水 治博	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長
大関 東支夫	一般社団法人全国技能士会連合会会長
小澤 真一	公益社団法人建設荷役車両安全技術協会常務理事
木田 隆子	株式会社ハースト婦人画報社 エル・デコ編集部ブランドディレクター
後藤 由美子	一般社団法人日本エステティック協会理事
小林 光俊	全国専修学校各種学校総連合会会長
佐々木 龍也	日本労働組合総連合会愛知県連合会会長
澤田 裕二	株式会社SD代表取締役社長
千原 ジュニア	株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーお笑い芸人
寺島 実郎	一般財団法人日本総合研究所会長／多摩大学学長
中西 義裕	名古屋製菓専門学校校長
挾土 秀平	職人社秀平組代表
長谷川 正己	全国中小企業団体中央会副会長／愛知県中小企業団体中央会 会長
福井 昌平	株式会社コミュニケーション・デザイン研究所 代表取締役社長
堀場 和夫	名古屋市副市長
水野 直樹	株式会社NHKエンタープライズ グローバル事業本部 事業開発センター イベント・映像展開担当部長
森田 哲夫	全国商工会連合会理事／愛知県商工会連合会会長
横尾 敬介	公益社団法人経済同友会副代表幹事・専務理事
芳野 友子	日本労働組合総連合会副会長／JAM副会長
和田 慶宏	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長

# 2023年技能五輪国際大会招致委員会の構成について(案)

※下線部は招致委員会委員



## 第44回技能五輪国際大会の競技職種(51職種) ※網がけは日本が参加していない11職種

構造・建築系		アート・ファッション系	情報通信系	製造エンジニアリング系		サービス系	輸送系
石工	造園	3Dデジタルゲームアート	情報ネットワーク施工	CNCフライス盤	機械製図CAD	パン製造	航空機整備
れんが積み	広告美術	洋裁	ITネットワークシステム管理	CNC旋盤	メカトロニクス	ビューティーセラピー	自動車板金
家具	左官	フラワー装飾	ビジネス業務用ITソフトウェア・ソリューションズ	構造物鉄工	移動式ロボット	西洋料理	自動車工
建築大工	配管	グラフィックデザイン	印刷	電子機器組立て	プラスチック金型	美容/理容	車体塗装
建設コンクリート施工	冷凍空調技術	貴金属装身具	ウェブデザイン	工場電気設備	ポリメカニクス	看護/介護	貨物輸送
電工	タイル張り	ビジュアル販売促進		産業機械組立て	試作モデル製作	洋菓子製造	重機メンテナンス
建具				製造チームチャレンジ	溶接	レストランサービス	

**【役割】**  
職種別に更に具体的な検討、強化策の実施、部会への報告等を担う。

**【メンバー】**  
各職種のエキスパート、関係業界、関係企業等、職種別に組織

# 2023年技能五輪国際大会の 日本・愛知への招致に向けた取組（案）

厚生労働省  
愛知県  
中央職業能力開発協会



# 技能五輪国際大会招致に係る基本情報





# 技能五輪国際大会の概要

- **原則22歳以下の青年技能者**を対象に、技能競技を通じ、参加国・地域の**職業訓練の振興及び技能水準の向上**を図るとともに、国際交流と親善を目的に**隔年で開催**。幅広い職種を対象とする、**唯一の世界レベルの技能競技大会**。日本選手団は、1962年から参加。これまで日本では、**過去3回国際大会を実施**（1970年東京、1985年大阪、2007年静岡）。
- 国際大会はワールドスキルズインターナショナル（本部オランダ・WSI）により運営されており、**現在79か国・地域が加盟**。**日本は中央職業能力開発協会（JAVADA）が加盟**。
- 直近では、2017年10月に第44回技能五輪国際大会（アラブ首長国連邦・アブダビ）が開催。今後の国際大会は、**2019年8月にロシア・カザン、2021年9月に中国・上海で開催予定**。

## 【これまでの開催国と今後の開催国】

開催年・月	2007年11月	2009年9月	2011年10月	2013年7月	2015年8月	2017年10月	2019年8月	2021年9月	2023年
開催国	第39回 日本（静岡）	第40回 カナダ （カルガリー）	第41回 イギリス （ロンドン）	第42回 ドイツ （ライプツィヒ）	第43回 ブラジル （サンパウロ）	第44回 アラブ首長国 連邦（アブダビ）	第45回 ロシア （カザン）	第46回 中国 （上海）	第47回 2019年8月 WSI総会 （カザン）で決定
参加国・地域	46	46	52	53	59	59	60程度	—	—
競技職種数	47	45	46	46	50	51	50程度	—	—
参加選手数 （）は日本選手	812 （51）	850 （45）	944 （44）	986 （45）	1,189 （45）	1,250 （45）	1,300 程度（—）	— （—）	—
日本の成績 （順位は金メダル数）	国別順位：1位 金メダル 16個 銀メダル 5個 銅メダル 3個	国別順位：3位 金メダル 6個 銀メダル 3個 銅メダル 5個	国別順位：2位 金メダル 11個 銀メダル 4個 銅メダル 4個	国別順位：4位 金メダル 5個 銀メダル 4個 銅メダル 3個	国別順位：3位 金メダル 5個 銀メダル 3個 銅メダル 5個	国別順位：9位 金メダル 3個 銀メダル 2個 銅メダル 4個	—	—	—

## 【第44回国際大会の競技職種（51職種）】 ※網がけは日本が参加していない11職種

構造・建築系(13)		アート・ファッション系(6)	情報通信系(5)	製造エンジニアリング系(14)		サービス系(7)	輸送系(6)
石工	造園	3Dデジタル ゲームアート	情報ネットワーク施工	CNCフライス盤	機械製図CAD	パン製造	航空機整備
れんが積み	広告美術	洋裁	ITネットワークシステム管理	CNC旋盤	メカトロニクス	ビューティー セラピー	自動車板金
家具	左官	フラワー装飾	ビジネス業務用ITソフトウェア・ ソリューションズ	構造物鉄工	移動式ロボット	西洋料理	自動車工
建築大工	配管	グラフィック デザイン	印刷	電子機器組立て	プラスチック 金型	美容/理容	車体塗装
建設コンクリート 施工	冷凍空調 技術	貴金属装身具	ウェブデザイン	工場電気設備	ポリメカニクス	看護/介護	貨物輸送
電工	タイル張り	ビジュアル販売 促進		産業機械組立て	試作モデル製作	洋菓子製造	重機メンテナンス
建具				製造チーム チャレンジ	溶接	レストラン サービス	

# 2023年技能五輪国際大会の日本・愛知への招致までのプロセスについて

## 【招致に向けた検討開始】



- 「**日本再興戦略2016**」（**2016年6月閣議決定**）において、技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、**2017年度年央までに結論を得る**こととされた。
- 2017年1月に職業能力開発局長（現人材開発統括官）の下、有識者による「技能五輪国際大会誘致に向けた検討会（座長 赤松明 ものづくり大学学長）」を設置。
- 検討会では、愛知県が取りまとめた「2023年技能五輪国際大会基本構想」を受け、①「**日本をレベルアップする**」、②「**日本を発信する**」、③「**日本を盛り上げる**」との観点から招致の意義を検討の上、2023年の技能五輪国際大会を日本（愛知県）で開催することを求める、とした。

## 【招致立候補の決定等】

- **2017年9月22日、厚生労働省として、2023年の技能五輪国際大会の招致（日本・愛知県）に立候補することを決定。同日の閣議において加藤厚生労働大臣から関係省庁にも招致に向けた協力をお願いしたい旨発言。**
- 同年10月、アブダビで開催されたWSI総会において、日本が招致に立候補する意思があることを表明し、WSI役員や加盟国等に対して支持要請を実施。
- 2018年4月18日現在、立候補を国内で明言している国は**フランス**、立候補を検討している国は**スイス**。  
**2019年8月の招致決定に向け、オールジャパン体制で招致プロモーション活動、国内機運の醸成等に取り組む必要。**

## 【今後のスケジュール（予定）】

	2017年度	2018年度	2019年度	..	2023年度	
開催国	第44回UAE(アブダビ)	WSI総会(オランダ・アムステルダム)	第45回ロシア(カザン)		2019年8月 WSI総会(カザン)で 決定	
主なスケジュール	9月 招致立候補の決定  10月WSI総会 (アブダビ)	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;">                     10月 WSI総会にて <b>正式な募集開始・立候補の表明</b>                      1月頃 審査書類の提出                      3月頃 WSI事務局 検証訪問                      6月頃 立候補ファイル提出                      8月末 WSI総会(カザン)にて <b>開催地決定</b> </div>				

# ワールドスキルズインターナショナル（WSI）と開催地決定方法について

## 技能五輪国際大会運営組織について

- 名称：ワールドスキルズインターナショナル（略称：WSI）
- 本部：オランダ・アムステルダム
- 加盟国/地域：世界79か国/地域が加盟（2018年3月現在）。日本は中央職業能力開発協会が加盟。
- 概要：WSIは、職業訓練の促進、技能に関する制度の情報交換の促進及び青年労働者の国際的相互理解の促進を目的として結成された非政府組織。

## 開催地決定の選挙方法

- 票数：加盟国/地域は**一票を有する**。ただし、**準加盟国は投票権（選挙権）無し**。
- 立候補国等が2か国以上の場合：絶対多数（**投票数50%プラス1**）が必要。絶対多数に満たない場合は、再投票。候補国等3か国以上で再投票となった場合、獲得票数が一番少ない国は除外され、再投票。

## WSI加盟国/地域一覧

**全加盟国/地域数：79か国**（正加盟国/地域：**70か国**（括弧内赤字）、準加盟国/地域（国/地域名青字）：**9か国**）

- アジア（19か国（17））** バングラデシュ人民共和国、ブルネイ・ダルサラーム国、中華人民共和国、香港、インドネシア共和国、インド、日本国、大韓民国、カザフスタン共和国、スリランカ民主社会主義共和国、モンゴル国、マカオ、マレーシア、フィリピン共和国、パキスタン・イスラム共和国、シンガポール共和国、タイ王国、台湾、ベトナム社会主義共和国
- 大洋州（2か国（2））** オーストラリア連邦、ニュージーランド
- 北米（2か国（2））** カナダ、アメリカ合衆国
- 中南米（13か国（8））** アルゼンチン共和国、バルバドス、ブラジル連邦共和国、チリ共和国、コロンビア共和国、コスタリカ共和国、ドミニカ共和国、エクアドル共和国、ジャマイカ、メキシコ合衆国、パラグアイ共和国、トリニダード・トバゴ共和国、ベネズエラ・ボリバル共和国
- 欧州（28か国（27））** アルメニア共和国、オーストリア共和国、ベルギー王国、ベラルーシ共和国、スイス連邦、ドイツ連邦共和国、デンマーク王国、エストニア共和国、スペイン王国、フィンランド共和国、フランス共和国、ジョージア、クロアチア共和国、ハンガリー、アイルランド、アイスランド共和国、イタリア共和国、リヒテンシュタイン公国、ルクセンブルク大公国、ラトビア共和国、オランダ王国、ノルウェー王国、ポルトガル共和国、ルーマニア、ロシア連邦、スウェーデン王国、ウクライナ、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国
- 中東（9か国（8））** アラブ首長国連邦、バーレーン王国、イスラエル国、イラン・イスラム共和国、クウェート国、オマーン国、パレスチナ、サウジアラビア王国、トルコ共和国
- アフリカ（6か国（6））** エジプト・アラブ共和国、モロッコ王国、ナミビア共和国、チュニジア共和国、南アフリカ共和国、ザンビア共和国

# 大会招致部会・機運醸成部会・選手強化部会 における検討事項(案)



# 大会の開催プランについて【大会招致部会】

## 開催場所

### <競技会場>

○愛知県国際展示場（2019年9月完成予定。場所：常滑市）

総面積8.6万㎡（うち展示面積6万㎡）  
屋外仮設建築物4万㎡で実施予定  
アクセス：中部国際空港直結  
名古屋駅から28分  
(参考) WSI基準：最低9万㎡



### <開閉会式・パーティ会場>

○ポートメッセなごや（2022年秋に移転改築予定。場所：名古屋市）

第1展示場：20,000㎡（開閉開式会場）  
収容人数：15,000名

第3展示場：約13,500㎡（パーティ会場）  
収容人数：約4,000名  
アクセス：名古屋駅から24分

(参考) WSI基準：開閉会式の収容人数9,000人以上、  
パーティ収容人数3,500人以上



## 開催期間

2023年10月から11月の10数日間

6日間	1日	4日間	1日	数日間
WSI関係会議（総会、各種委員会等）	開会式	競技	閉会式	WSI関係会議（総会、理事会等）

⇒大会日程、会場レイアウト等の開催プランについて、**大会招致部会で検討**

## 職種数・参加選手数 ・来場者数・開催経費（実績）

- 職種数 **51職種** (2017年大会実績)
- 参加選手数 **1,250人** (2017年大会実績)
- 来場者 **約26万人** (2015年大会実績)
- 開催経費 **約72億円** (2013年大会実績)

⇒2023年に係るこれらの数値については、**早い段階で試算予定**

※各実績は判明している最新の数値を記載

## 周辺地図

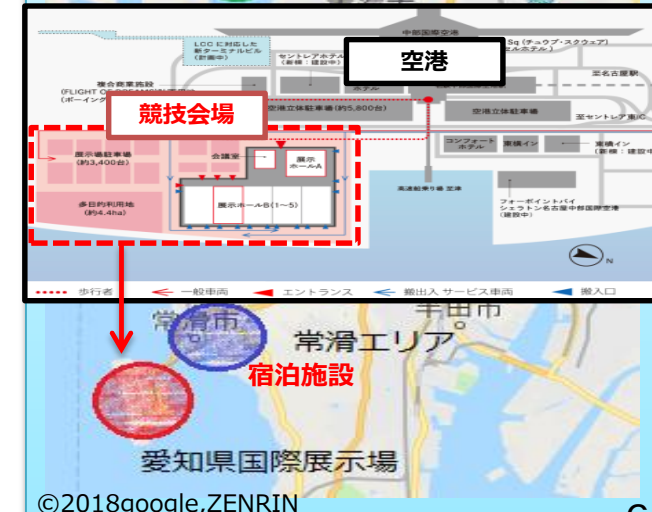


## 宿泊施設

競技会場のある常滑エリアと名古屋エリアと合わせて**約21,000部屋のキャパシティ**

- 常滑エリア<競技会場から5km圏内>
  - ・ホテル数：9（3つ星以上）
  - ・部屋数：約1,600部屋
- 名古屋エリア<競技会場から40km圏内>
  - ・ホテル数：100（3つ星以上）
  - ・部屋数：約19,000部屋

(参考) WSI基準：最低4,000部屋（3つ星以上）



# 大会テーマについて【大会招致部会】

○愛知県案では、「**技能をめぐる対話～創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展～**」をテーマ案として提案。

(観点)

・WSIのビジョンに呼応し、技能五輪国際大会を「技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場」へと進化させることを目指す。

・「技能」は多様化する国際社会において共通言語である。創造性あふれる技能と、技能を媒介として多様な人々が協力し合うことにより、私たちの世界の持続的発展を目指す。

○厚生労働省の検討会では、「**技能が拓く世界の未来**」を候補としつつ、「**技能をめぐる対話**」を通じて**技能分野が抱える課題の解決策を模索し、提示する等の具体的な方向性を含め、引き続き検討すべき**とされた。

(観点) 第4次産業革命などの産業構造の転換により人の雇用機会の喪失を懸念。しかし、革新的なアイデアを具現化するためには人の技能が不可欠。こうした新しい時代における人や技能の果たす役割・意義について積極的なメッセージを発信し、次代を担う若者に夢と希望を抱かせる機会としたい。

⇒ 本年10月のWSI総会（オランダ・アムステルダム）において、**大会テーマの打ち出しができるよう、大会招致部会において引き続き検討。**

(参考1) 他国の開催テーマ

○ ロシア・カザン大会（2019年）

・「あなたの技術の未来」

“The Future in your skills”

○ 中国・上海大会（2021年）

・「新しい若者、新しい技術、新しい夢」

“New Youth, New skills, New Dream”

(参考2) 過去の開催テーマ

○ 日本・静岡大会（2007年）

・「個性輝く技能の祭典～見せよう、伝えよう、技能で輝く個と社会～」

“Thanks for the skills”

(参考3) 『WORLD SKILLS VISION2025』  
(WSI策定)のポイント

<ビジョン> **技能の力で世界をより良くする**

WSIとそのメンバーは、経済成長と個々人の成功に向け、**グローバル技能標準の発展、ベストプラクティスの共有、技能の価値向上等に協働して取り組む。**

<ミッション> 熟練技能者の評価を高め、**経済成長と個々人の成功を達成するためには、「技能」がいかに重要な要素であるかを示すこと。**

<ポジション> WSIは、技能の卓越性と発展のためのグローバル・ハブ。

<戦略目標> ①若者・労働者・社会における**職業教育訓練への熱意と機会の向上**、②**労働市場、企業主、経済と強く結びついた職業教育訓練の質の向上**、③**技能を通じたWSI組織能力とメンバーのグローバル競争力の構築を支援。**

<WSIの6つの戦略的重点分野>

①技能振興、②キャリア形成、③技能競技大会、④教育訓練、⑤国際協力と開発、⑥調査研究

## 招致決定までに向けた活動方針（案）

- WSI関連の行事の機会だけでなく、**国の外交ルート、民間の経済活動とも連携し、あらゆる機会を活用した支持要請を実施**する。
- 各加盟国/地域の状況と我が国との関係に即した**きめ細かな支持要請**を行うとともに、**競合国の動向も踏まえた**効果的な支持要請を実施する。

## WSI 関連の主な行事と対応方針（案）

### 【2018年～】

#### ○2018年8月・9月：各地域大会（ASEAN Skills、EURO Skills）等の活用

- ・ASEAN Skills（2018年8月30日～9月4日・タイ 参加国数:10か国程度）において、日本の技能をデモンストレーション実施するなど技術協力をを行うとともに、WSI加盟国等に対して支持要請を実施
- ・EURO Skills（2018年9月26日～9月28日・ハンガリー 参加国数：28か国程度）において、選手やエキスパートを派遣するとともに、WSI加盟国等に対して支持要請等を実施

#### ○2018年10月：WSI総会（オランダ・アムステルダム）において招致立候補国の正式募集の開始

- ・WSI総会において、大会コンセプトなどを含めたプレゼンテーションを実施
- ・支持要請に向けたレセプション開催、ブース出展、個別の支持要請などにより日本・愛知の魅力をPR

### 【2019年～】

#### ○2019年3月頃：WSIによる検証訪問への対応

- ・WSI役員2名と事務局1名の計3名が愛知に3泊の予定で検証訪問に来日  
検証訪問に当たっては、厚労省、愛知県、中央職業能力開発協会、招致委員会メンバー等が一丸となってアテンド  
日本・愛知の魅力、大会運営能力の高さなどをアピール

#### ○2019年5月頃：グローバル・スキルズ・チャレンジ大会の活用等

- ・ロシア・カザン大会の前哨戦となるグローバル・スキルズ・チャレンジ（オーストラリア）等に、選手やエキスパートを派遣するとともに、レセプション開催、ブース出展、個別の支持要請などにより招致活動の追い込みを実施

#### ○2019年8月末：WSI総会（ロシア・カザン）において投開票、開催国決定

- ・WSI総会において、最終プレゼンテーションの実施（各国の投票行動に向けた集大成としてのプレゼンを実施）

⇒具体的な活動内容等は、**大会招致部会で検討**

## 招致決定までに向けた活動方針（案）

- **「参加」・「共感」を通じた国内の技能国際大会招致機運・技能尊重機運の醸成**
  - ・ 各種技能競技大会や展示会等において、国民が技能に**「参加」・「共感」できる機会**を創出
  - ・ **企業、個人の「参加」による**国内の期待感醸成
  - ・ SNS等による機動的な情報発信・**「共感」**による拡散、著名人の**「参加」**による国民各層への強力な情報発信

## 各種技能競技大会等のスケジュール

### 【各種技能競技大会】

- ・ **2018年8月1日～3日：若年者ものづくり競技大会（石川）**  
工業高校等で技能を習得中の原則20歳以下の若者を対象に技能レベルを競う大会（毎年開催）。本年は石川県で開催
- ・ **2018年8月20日～24日：CNC旋盤・CNCフライス盤職種選考会（愛知）**  
2017年の技能五輪全国大会での成績優秀者等を対象とした、2019年ロシア・カザン大会出場選手の選考会（選手の早期選抜の取組事例の一つ）
- ・ **2018年11月2日～5日：技能五輪全国大会（沖縄）**  
原則23歳以下の青年技能者を対象に技能レベルを競う大会（毎年開催）。多くの職種において、国際大会の選手選抜を実施。本年は沖縄県で開催
- ・ **2019年3月1日～4日：技能グランプリ（兵庫）**  
各都道府県から選抜された特に優れた技能を有する一級技能士等が競う大会（隔年開催）。2019年は兵庫県で開催
- ・ **2019年8月頃：若年者ものづくり競技大会（調整中）**

### 【産業系展示会イベント】

- ・ **2018年6月20日～22日（東京）、2018年10月3日～5日（大阪）：日本ものづくりワールド**

世界最大級のものづくり専門展であり、世界中から出展社が集まる場

※ 他にも国主催、自治体開催イベント等の場も活用

## ■ 具体的な取組（案）

### ▶ 各種競技大会等を活用した広報活動

- ・ 各種競技大会でのサイドイベントとして、ジュニア大会（小・中学生対象）を開催
- ・ ものづくり技能体験の実施
- ・ VR等を活用した、選手目線での競技体験
- ・ 国際大会金メダリスト等による職種デモンstrーション、講演等を実施
- ・ 1分動画によるわかりやすい競技紹介
- ・ インスタグラムやツイッターなどのSNS等を活用し、機動的に情報を発信⇒拡散を期待
- ・ 技能を自分の身近なもの・我が事として感じてもらえる「シリーズ形式」のポスターを作成し、国民の興味・関心を喚起 など

### ▶ 上記以外での広報活動

- ・ 国民各層を巻き込んだ招致シンボルマークの決定（例：東京オリンピックにおける小学生参加型のマスコット決定手法）
- ・ 著名人による情報発信、マンガ等により技能をかみ砕き、親しみやすいものとして情報発信

⇒具体的な活動内容等は、**機運醸成部会で検討**



# 選手強化策の方向性(案)について【選手強化部会】

- アブダビ大会（2017年10月）では、日本は、金メダル3個、銀メダル2個、銅メダル4個、**合計9個（9位）のメダルを獲得。**金メダル獲得数の順位は、ブラジル・サンパウロ大会（2015年8月）の3位から9位へ大きく後退。日本がこれまで強みとしてきた「**ものづくり**」関係職種を含め、**メダル獲得数が減少。**
- 特に中国（金メダル15個）、ブラジル（7個）、ロシア（6個）等新興国の台頭が顕著。  
※ 新興国においては、早期に国際大会出場選手を選抜し、トレーニングセンターにおいて集中的に強化訓練を実施する等、選手強化に国を挙げて取り組んでいる。

## 原因

- ① **訓練期間が短く**、十分な対策を講じられない、
- ② **国際大会に合致した競技課題・日程となっていない**、
- ③ 選手の育成・強化を所属先企業や各業界等の自主的な努力（費用負担）に依存。**国による戦略的・包括的アプローチが不足** 等

具体的には、

○ **選抜時期**：大会前年の国内大会選抜では、**訓練期間の確保が困難。**

○ **選抜内容**：国際大会と国内大会で**課題や日程が異なる。**

○ **強化訓練の実施**：**多くは企業・業界等自身による実施(負担)が中心。**

○ **エキスパート**：民間企業所属エキスパートは、国際大会出場選手の選抜結果の影響により、継続が困難な場合があり、**業務への習熟度や他国エキスパートからの情報収集能力に課題。**

○ **通訳**：通訳抽選制の導入のため、**専門用語の理解、選手等とのコミュニケーションに課題。**

○ **情報収集・分析力**：国際大会の競技課題は、**外部機関作成に移行。**他国の選手強化の取組の十分な情報がない。また、過去大会の反省点について、**企業、団体内でとどまっており、共有されていない。**

○ **若手技能人材の不足**：日本は51職種中、**40職種のみ出場。**新興国は多くの職種に選手を派遣。幅広い職種でメダルを獲得。

具体的対応(2019年度～)⇒選手強化部会・職種別TFで検討・実施

## 選抜時期の早期化

○ 選手選抜を**2年前選考など早期化を検討。**十分な訓練期間を確保。

## 選抜内容の改善

○ 国内大会の**競技課題・日程を国際大会に合致させること等を検討。**

## 強化訓練の計画的実施・支援の充実による選手力強化

○ **競技職種ごとに業界団体等に対し強化訓練計画の策定を要請。策定された計画に応じ、国から支援を行う(※)。**  
※ 訓練会場・機材経費・材料費等への助成、国内外での強化合宿・海外大会への参加費等

## 選手を支えるスタッフ力の向上

○ 海外エキスパートの国内招聘・指導による**エキスパートとしての能力向上。**

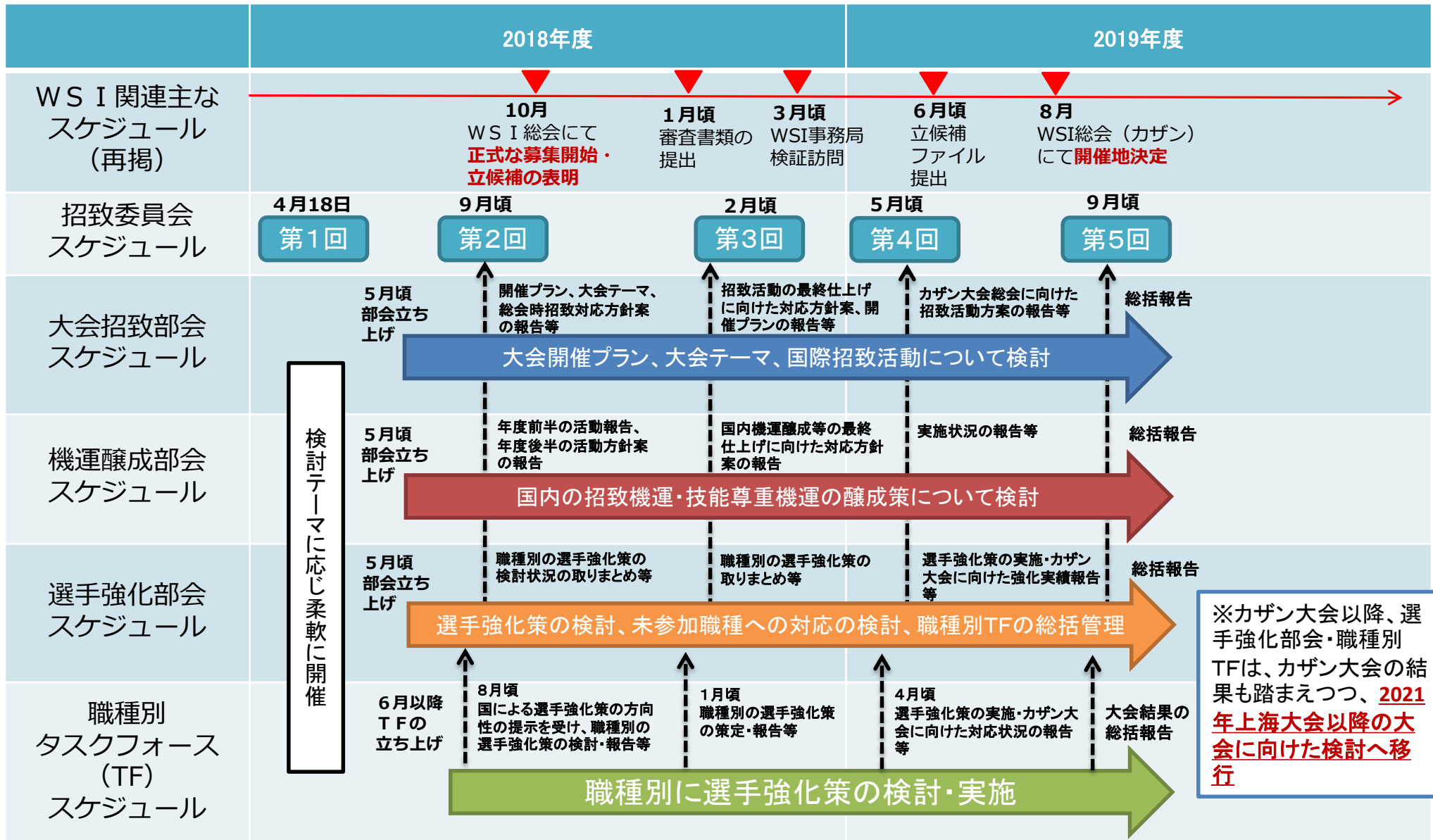
○ **継続的な通訳研修を実施。**競技課題の専門知識・用語に対する理解、選手とのコミュニケーションに万全を期する。

○ 国際大会の競技課題、他国の選手強化の取組等に関する**情報の収集・展開を支援。**

## 若手技能人材の裾野拡大・技能尊重機運醸成

○ 国際大会出場選手の**早期発掘や若手技能人材の裾野拡大**に資するよう、国民各層(小中高を含む。)に技能職種の魅力等を発信。

# 招致委員会・各部会・職種別タスクフォースの検討スケジュール（案）



# (参考) 技能五輪国際大会 これまでの開催実績・メダル獲得数

回数	開催年	開催国・地域	参加国地域数	総参加選手数	日本選手成績			金メダル獲得上位3か国・地域名
					金	銀	銅	
第1回	1950年	スペイン・マドリード	2	24				
第2回	1952年	スペイン・マドリード	2	16				
第3回	1953年	スペイン・マドリード	6	65				
第4回	1955年	スペイン・マドリード	6	82				
第5回	1956年	スペイン・マドリード	8	88				
第6回	1957年	スペイン・マドリード	8	128				
第7回	1958年	ベルギー・ブリュッセル	10	144				
第8回	1959年	イタリア・モデナ	9	150				
第9回	1960年	スペイン・バルセロナ	7	173				
第10回	1961年	西ドイツ・デュイスブルグ	11	182				
第11回	1962年	スペイン・ヒホン	10	199	5	1	0	1位スペイン、2位日本
第12回	1963年	アイルランド・ダブリン	12	227	10	0	2	1位日本 2位アイルランド 3位西ドイツ
第13回	1964年	ポルトガル・リスボン	12	199	12	4	0	1位日本 2位イギリス 3位ポルトガル、スペイン
第14回	1965年	イギリス・グラスゴー	11	200	6	5	2	1位イギリス 2位日本 3位スペイン
第15回	1966年	オランダ・ユトレヒト	11	212	9	3	2	1位日本 2位オランダ 3位イギリス、イタリア
第16回	1967年	スペイン・マドリード	11	218	5	7	2	1位スペイン 2位日本 3位西ドイツ
第17回	1968年	スイス・ベルン	14	246	6	2	5	1位スイス 2位日本 3位韓国
第18回	1969年	ベルギー・ブリュッセル	15	260	9	2	4	1位日本 2位スイス 3位西ドイツ
第19回	1970年	日本・東京	15	274	17	4	3	1位日本 2位西ドイツ、韓国、スイス
第20回	1971年	スペイン・ヒホン	15	273	10	3	5	1位日本 2位スペイン、スイス
第21回	1973年	西ドイツ・ミュンヘン	15	281	5	5	8	1位西ドイツ 2位韓国 3位日本、スイス
第22回	1975年	スペイン・マドリード	17	291	4	7	5	1位スイス 2位韓国 3位スペイン 4位日本
第23回	1977年	オランダ・ユトレヒト	16	267	7	4	3	1位韓国 2位西ドイツ 3位日本
第24回	1978年	韓国・釜山	14	239	1	5	6	1位韓国 2位スイス 3位オーストリア他3か国 7位日本

回数	開催年	開催国・地域	参加国地域数	総参加選手数	日本選手成績			金メダル獲得上位3か国・地域名
					金	銀	銅	
第25回	1979年	アイルランド・コーク	14	276	7	8	1	1位韓国 2位日本 3位スイス
第26回	1981年	アメリカ合衆国・アトランタ	14	266	5	8	4	1位韓国 2位日本 3位スイス、西ドイツ
第27回	1983年	オーストリア・リンツ	18	309	4	5	4	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 4位日本
第28回	1985年	日本・大阪	18	307	11	8	4	1位韓国 2位日本 3位チャイニーズタイペイ、スイス
第29回	1988年	オーストラリア・シドニー	19	354	6	0	3	1位韓国 2位日本 3位チャイニーズタイペイ、他2か国
第30回	1989年	イギリス・バーミンガム	21	382	3	6	1	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 5位日本
第31回	1991年	オランダ・アムステルダム	21	411	4	2	2	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 4位日本
第32回	1993年	チャイニーズタイペイ・台北	25	434	2	6	5	1位チャイニーズタイペイ 2位韓国 3位ドイツ 4位日本
第33回	1995年	フランス・リヨン	28	474	4	3	1	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位日本、ドイツ、スイス
第34回	1997年	スイス・ザンクトガレン	30	549	2	0	4	1位韓国、2位チャイニーズタイペイ、スイス 8位日本
第35回	1999年	カナダ・モントリオール	33	625	6	3	2	1位チャイニーズタイペイ、韓国 3位日本
第36回	2001年	韓国・ソウル	35	616	4	2	4	1位韓国 2位ドイツ 3位日本、オーストリア
第37回	2003年	スイス・ザンクトガレン	37	585	6	2	4	1位韓国 2位スイス 3位日本
第38回	2005年	フィンランド・ヘルシンキ	38	696	5	1	2	1位日本、スイス、南チロル・イタリア 4位ドイツ、フィンランド 6位韓国他3か国
第39回	2007年	日本・静岡	46	812	16	5	3	1位日本、2位韓国、3位フランス
第40回	2009年	カナダ・カルガリー	46	845	6	3	5	1位韓国 2位スイス 3位日本
第41回	2011年	イギリス・ロンドン	52	944	11	4	4	1位韓国 2位日本 3位スイス
第42回	2013年	ドイツ・ライプツィヒ	53	986	5	4	3	1位韓国、2位スイス 3位チャイニーズタイペイ、4位日本
第43回	2015年	ブラジル・サンパウロ	59	1189	5	3	5	1位韓国、2位ブラジル、3位日本他4か国
第44回	2017年	アラブ首長国連邦・アブダビ	59	1250	3	2	4	1位中国、2位スイス、3位韓国 9位日本、フィンランド

## 第1回 2023 年技能五輪国際大会招致委員会における発言補足資料(小澤)

2007 年静岡大会において実務を経験した視点から、招致活動及び機運醸成の進め方に関して、以下の 3 点を申し述べます。

## (前提)

## 1. WSI 執行部の理解・協力の獲得(少なくとも懸念の払拭)を図る。

- ・ WSI 執行部の最大の懸念事項は、開催権獲得国が途中で放り出すこと及び財政難を理由にみすばらしい大会となること。  
⇒適切に見積った経費の調達可能性を、説得力を持った形で示せることが立候補の大前提。(招致ビデオで大統領、首相、首長等が支持表明する例が多い。)
- ・ WSI 執行部の日本観は“競技には熱心だが、普及活動には全く熱意がない。”というもの。2007 年大会では、財政上の問題もあり、併設事業は最低限度で、執行部が重要視する事業(若年者フォーラム、職業教育担当大臣会合等)は実施せず、また、その後も競技以外諸活動への日本の貢献はほとんどない状況。  
⇒今後はこれらの活動にも積極的に参加して足跡を残すこと、2023 年愛知大会においては周辺事業の充実を図ることの本気度の表明が必須。
- ・ WSI は「ビジョン 2025」という戦略計画を策定し、参加国の増加により競技者の技量に大きな格差があるの中で、4 日間全員が同じ課題を実施するという現行競技方式の行詰りを打開するため、競技運営方式を変革することとしている。  
⇒肥大化した大会のスリム化にもつながる重要な課題であり、日本がこの改革に積極的に参加し、2025 年を待たず、2023 年の日本開催でこのビジョンが実現可能となるよう、議論をリードすることが肝要。

## (招致活動のターゲット)

## 2. 投票先決定の主導権は公式代表が握っていることに着目して計画を作成する。

- ・ 各国代表は、公的職業教育機関の関係者・関係省庁の幹部であり、各国 1 票の投票先は、公式代表と技術代表が協議し決定するとされているが、主導権は公式代表が握っている場合が多い。また、技術代表とは異なり公式代表には競技運営上の役割がないことに留意。  
⇒ 公式代表が有意義と感じ、参加可能なイベントを適度に計画することが最低限必要。(著名人による講演会、閣僚級の代表によるフォーラム、各国職業教育制度についてのセミナー、スポンサーとの交流会など)

- ・ 最近の加盟国(≡被援助国)代表向けのイベントが関心を呼ぶ可能性に着目  
⇒ ①人材だけが資源であった戦後における人材開発戦略と我が国(特に中京地域)の発展・高度経済成長との関連に関するセミナー・見学会、②シンガポール、タイ、ベトナム等で行った人材開発に関する日本の国際協力の成功例の発表及び可能であれば政府間協力に関するヒアリングなどの実施を提示してはどうか。
- ・ 他の候補国(スイス、フランス)に負けない日本の魅力の提示は決定的に重要  
⇒ 愛知県内の資源はもとより、海外からの来訪者に人気のある京都、富士山、高山などの観光資源へのアクセスの良さやマンガ、空手、木造建築物(宮大工)、盆栽その他の日本の文化を魅力的に紹介する。

(大会成功のために)

**3. 機運の醸成、調達計画、実施計画等はオールジャパンで行うが、競技職種が専門学校・各種学校との親和性が高い点に特に留意して行う。**

- ・ 現在の競技職種は、西欧各国の(公的)職業教育機関(専門大学校・高等学校等)の学科コースを基にしていることから、これらの国では、公的予算により職業教育機関の機器・機材等の更新を数年間、計画的に実施することにより、大会において必要となる機器等の大半が調達できる状況にある。一方、日本においては、公共部門ではこれらの職種の教育訓練を行うことはほとんどなくなっており、2007 静岡大会では大半の機器を有償又は無償の貸与品で賄わざるを得なかった。  
⇒ 競技職種の大半は専門学校・各種学校において開設されているコースと一致していることから、競技の準備・運営はもとより、機器の調達に関しても、思い切った支援スキームの下に専門学校・各種学校の参画・協力を募る。
- ・ いかに多くの若者に参画してもらうかを考える上で専門学校・各種学校在生は大変魅力的  
⇒ ①招致活動、PR 活動に使用する媒体作成への学生の参加を促す、②大会の運営に当たって、各競技のWEB 配信、各種ソーシャルネットワークコンテンツの作成等への学生の参画を企画する、③クラウドファンディングを利用した選手の育成・派遣、使用機器・材料の調達等を検討する。
- ・ 愛知県内に数多くおられる国際・国内大会のメダリストは、機運の醸成・大会運営に貴重な存在  
⇒ 機運醸成のためのイベントはもとより、大会期間中の競技解説、メダルのプレゼンターなど活躍していただく機会は多く、若者の道標としての活躍をお願いする。

以上

## 参考資料

### 1. 各国の力の入れ方の例

#### ①2019 カザン大会キャンペーンビデオ



プーチン大統領が組織委員会との会合で「個人的な支援」を表明した。

YouTube: Russia bid campaign for WorldSkills 2019 より



②2021 開催地が上海に決定後、李克強首相と WSI Simon Bartley 会長一行が北京で面会した。

YouTube: Chinese Premier Meets President of WorldSkills International より

#### ③ 2015 サンパウロ大会のプロモーションでは、当時のルラ大統領



が旋盤工の出身ということもあり、職業能力教育機関である SENAI を強力にサポートしていることを強調していた。YouTube: Lula Senai 60.mpg より

YouTube: Lula Senai 60.mpg より

#### ④ 2011 年ロンドン大会の PR ビデオでは Ken Livingstone



Livingstone ロンドン市長が出演しロンドンをアピールした。これとは別に、総会で Tony Blair

首相が〇〇万ポンド(一説では約 60 億円)を上限に財源を用意している旨のビデオが流されたとのこと。YouTube: WSC2011 - UK Skills Bid より

### 2. 主な競技外事業 (WSI の WEB より)

#### ① アブダビ大会 (2017)

##### a. ワールドスキルズ会議 2017



競技 2 日目  
及び 3 日目  
初日 9:00  
-17:30 2

会場で 7 本のパネル等。18:00 レセプション。二日目 8:30-12:00 2 会場で 7 本のパネル等。13:45VIP ツアーなる競技会場視察。15:30 全体総括、閉会式 19:00 食事会 海外からのゲストスピーカー等 50 名程

##### b. 国際職業教育訓練ユースフォーラム

競技会前日 (8:30-14:30) 及び初日 (9:45-13:20) 参加者 362 名 6 グループに分かれ第 4 次産業、イノベーション等のテーマを討議し結果を宣言として記者発表

#### ② サンパウロ大会 (2015)

##### a. 国際職業教育担当大臣会合の開催



大会開催 1 年前のイベント。ブラジル、オランダ、ロシア及び韓国の大臣等により職業教育の重要性

に関する共同声明を発表

##### b. 国際会議

競技日 4 日間を挟む 6 日間連続で実施。1 日目と最終日は、会場外見学等



で約 180 名の、2-5 日は競技会場内で 450-520 名の参加があった。

#### ③ 競技大会以外での活動

a. スイス (ルツェルン) : WorldSkills Champions Forum 2014



b. 中国 (上海) : Champions Trust Training Camp、2018 年 2 月



週刊  
寺島文庫  
寺島実郎の  
未来先見塾

毎週金曜  
よる8時59分

現代人に必須の  
テーマを徹底討論!!

企画・製作協力: (社)寺島文庫 / (財)日本総合研究所会長室

いつでも無料放送  
BS押して 11押すだけ  
BS11  
日本BS放送

4月20日（金）20：59～21：54 【BS11】

テーマ：「モノづくり国家・日本と技能五輪」（仮）

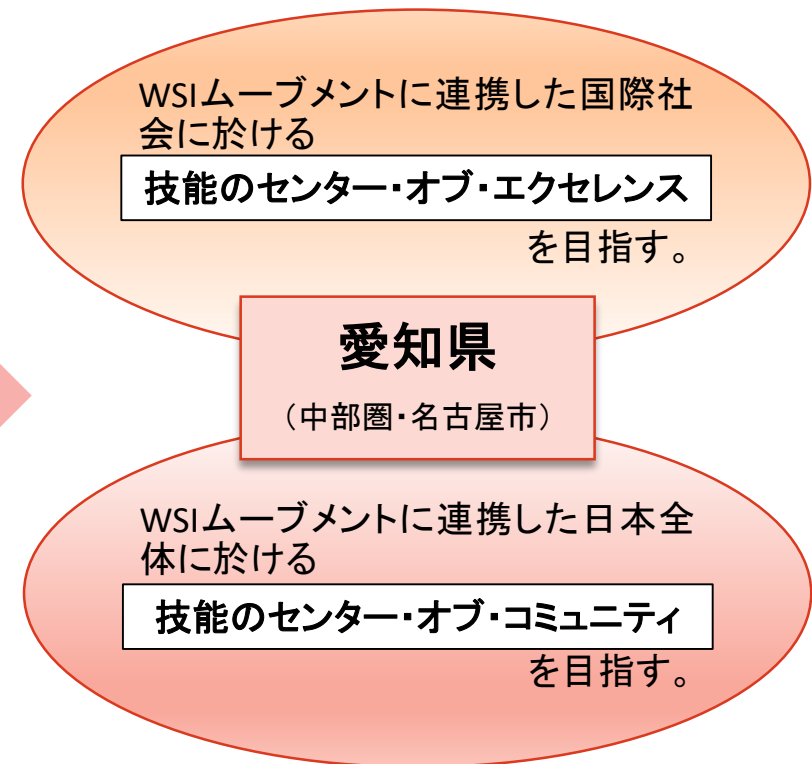
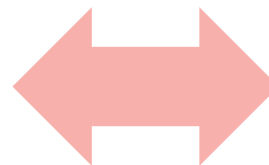
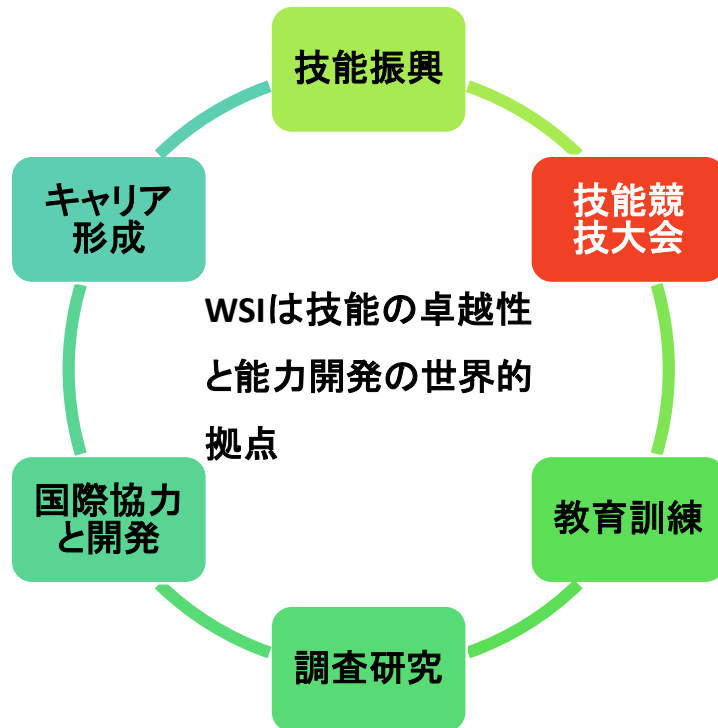
M C：寺島 実郎

ゲスト：赤松 明氏（ものづくり大学 学長）

清水 義晃氏（株式会社協和エクシオ、技能五輪国際大会金メダリスト）

# 「技能五輪国際大会」招致・開催の戦略的視点について

招致・開催都市に立候補した日本国と愛知県は、WSIの掲げる、『技能競技大会は単なる競技大会ではありません、一つのムーブメントです』を積極的に推進できる国と地域であることを、実践的にアピールし、全国と世界から共感されることが大切。





# 「技能」のムーブメント興隆に向けた日本と愛知の3大アプローチ

## 第1のアプローチ

技能五輪国際大会への出場を戦略的視点とする高等学校・専門学校・企業内技能者育成機関・大学等の技能育成組織の裾野の拡大とムーブメントの醸成。

- 従来の競技モデルの実演紹介や出場経験者のトークショー開催にとどまらず、対話型のコミュニケーション・プログラムや参加体験学習(ラーニング・エクスペリエンス)方式の多様な技能育成プログラムの開発を目指す。

## 第2のアプローチ

中部地区と愛知県に集積するものづくり産業のパワー(産業技術ミュージアムや先端技術開発センターや工場の集積)と戦略的に連携したムーブメントの醸成。

- 産業技術の歴史的集積と先端的開発の拠点をもつ中部圏・愛知県の特質を積極的に生かして、「技能」と「産業技術」の関わりを実践的に「学び」「体験できる」、新しい体験学習型プログラムの多様多彩な広がりを目指す。

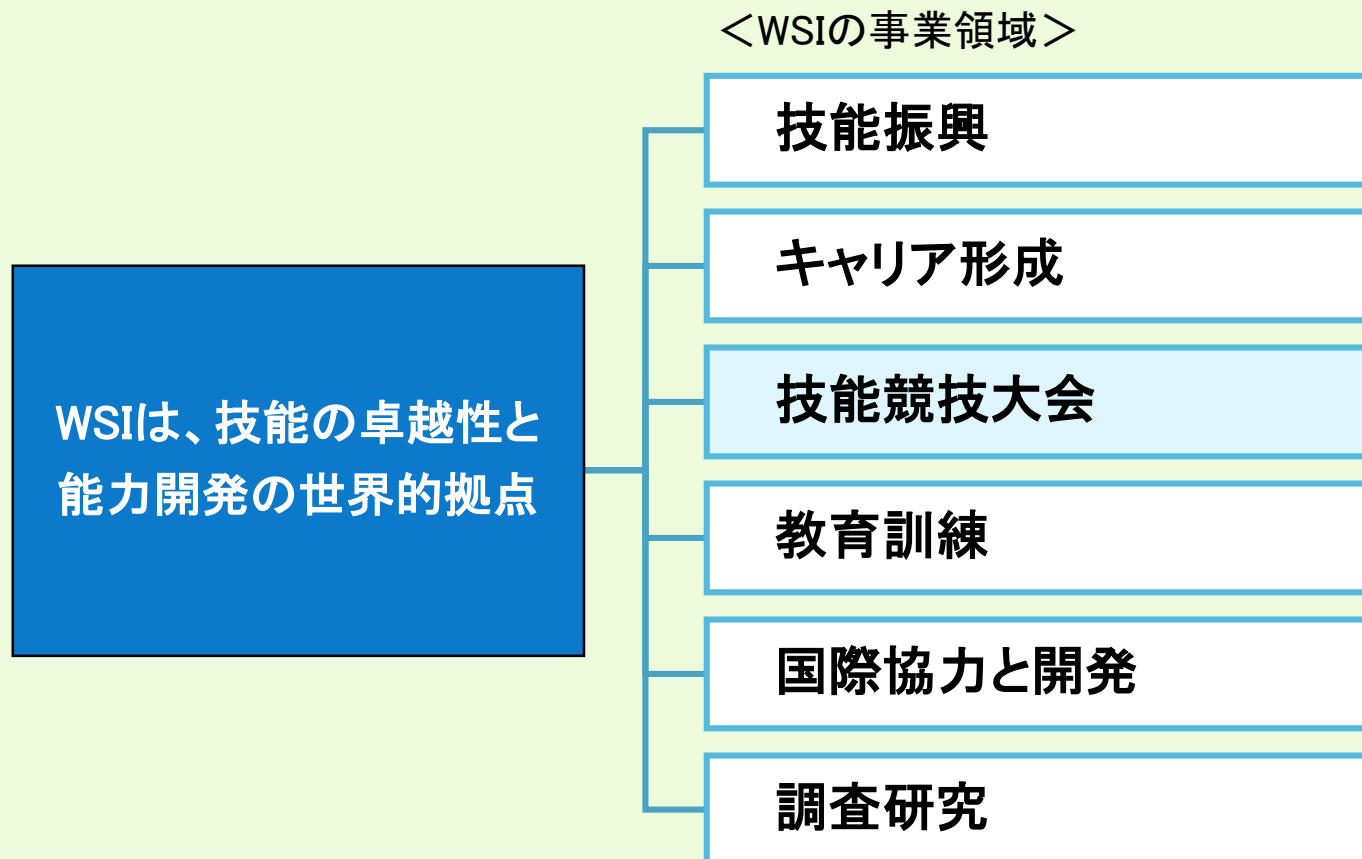
## 第3のアプローチ

国民や県民の日常のライフスタイルや生涯学習環境の中で、「技能」のはたす役割と価値を広く共有・共感する新しい参加体験型のムーブメントの醸成。

- 生涯学習センターや美術館・図書館・科学館等の社会教育機関や生活文化対応施設に於いて、全世代対応型の「技能ラボ」プログラムの普及と発展を目指す。(音楽・映像・デザイン・工芸等のアートのかとのコラボレーションを大切にする。)

## WSI(ワールドスキルズ・インターナショナル)のビジョン

技能競技大会は単なる競技大会ではありません。  
一つのムーブメントです。



## 国際博覧会事業の新たな潮流形成

### ■BIE(国際博覧会条約事務局)の1994年決議

国際博覧会は、地球的課題を掲げ、そのソリューションを提示する多様な主体の参加による「対話」と「交流」の場

### ■愛・地球博に於ける国際諮問委員会の提言(2001年)

- ① 持続可能な社会・経済構築に向けた実践・実験の場(サステナビリティ)
- ② 国・地域・文化の多様性を擁護する場 (ダイバーシティ)
- ③ 地球市民としての感性を育む連帯と共感の場 (グローバル・シチズンシップ)

### ■BIEの「Bulletin2017」での提言

21世紀の国際博覧会は、多様な主体の参加による「地球的課題をテーマにした、持続可能なイノベーションとレガシー」構築のムーブメント

＜2014年11月のIOC総会で採択＞

## オリンピックアジェンダ2020

「持続可能性とレガシー」を、全てのオリンピック・ムーブメントの活動と事業に徹底させること。

- 多様なスポーツ競技との連携
- スポーツ競技施設の活用の幅の拡大
- 豊かなスポーツコミュニティ形成の貢献
- 多様な市民や団体との連携
- ユネスコとのパートナーシップの強化
- スポーツ入門プログラム「スポーツ・ラボ」の実施